

令和2年感染症発生動向調査概要

1 定点把握対象感染症

(1)小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点報告疾病

令和2年の報告患者数は11,073件であり、令和元年より14,651件の減少であった。

報告数の多い疾病は、インフルエンザ(28.5%)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(28.3%)、感染性胃腸炎(26.4%)の順であった。令和元年に比較して突発性発疹が増加した一方、インフルエンザ、感染性胃腸炎、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は減少した。

1定点・1週当たりの患者報告数で全国平均と比較して高いものは、伝染性紅斑(2.82倍)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(2.62倍)等であった。

(2)性感染症(STD)定点報告疾病

性感染症(STD)定点報告対象疾病の4疾病(性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症)の全報告件数は507件であり、昨年より12件減少した。

いずれも男性の割合が高く、地域別では西部地区での割合が高かった。また、年齢については、20歳~40歳代に多かった。

(3)基幹定点報告疾病

基幹定点報告対象の3疾病(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症)の全報告数は119件であり、昨年より30件減少した。

2 全数把握対象感染症

(1)1類感染症

鳥取県、全国とも発生はなかった。

(2)2類感染症

鳥取県では、結核42件の報告があった。

(3)3類感染症

鳥取県では、腸管出血性大腸菌感染症26件の報告があった。

(4)4類感染症

鳥取県では、レジオネラ症12件、日本紅斑熱10件、つつが虫病3件、重症熱性血小板減少症候群2件、E型肝炎1件、A型肝炎1件の報告があった。

(5)5類感染症

鳥取県では、梅毒32件、侵襲性肺炎球菌感染症12件、百日咳12件、急性脳炎(ウエストナイル脳炎等を除く。)8件、水痘(入院例に限る。)7件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症7件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5件、アメーバ赤痢4件、播種性クリプトコックス症3件、ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)1件、侵襲性髄膜炎菌感染症1件、薬剤耐性アシネトバクター感染症1件の報告があった。

(6) 指定感染症

鳥取県では、新型コロナウイルス感染症 119 件の報告があった。

3 病原体検査状況

受入検体件数 6,327 件で、多い順に新型コロナウイルス感染症 6,126 件、腸管出血性大腸菌感染症 91 件、日本紅斑熱 27 件、感染性胃腸炎 25 件等である。

9 疾患を中心に 10 種類 13 型（血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む）のウイルス、リケッチア、細菌が分離・検出された。

(1) 腸管出血性大腸菌感染症

O26 が 3 件、O111、O103 及び O 型別不明が 1 件分離同定された。

(2) 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

SFTS ウイルスが 2 件検出された（県内初）。

(3) 日本紅斑熱

日本紅斑熱リケッチアが 11 件検出された。

(4) 感染性胃腸炎

ノロウイルス G II 型が 13 件とアストロウイルスが 1 件検出された。

(5) インフルエンザ

インフルエンザウイルスが 8 件検出され、すべて A2009 型であった。

(6) 流行性角結膜炎

アデノウイルスが 2 件検出され、すべて 54 型であった。

(7) 伝染性紅斑

パルボウイルス B19 が 1 件検出された。

(8) RSウイルス感染症

RSウイルスが 1 件検出され、A 亜型であった。

(9) 水痘

ヘルペスウイルス 3 が 1 件検出された。

(10) 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルスが 87 件検出された。